

# 平成28年度卒業式 式辞

吹き抜ける風は、まだ冷たいものの、窓から差し込む光は明るさを増し、校庭のあちらこちらで春の息吹が感じられるこの良き日に、明石市教育委員会事務局 児童・生徒支援課 課長 ○○ ○様をはじめ、多くのご来賓の皆様、保護者・ご家族の皆様のご臨席を賜り、平成28年度「明石市立二見中学校 第69回 卒業証書授与式」を挙行できますことを誠にうれしく思います。高いところからではございますが、本校、校長といたしまして、皆さまに厚く、御礼、申し上げます。

本日、本校を巣立ちゆく第六十九回生、二百九十三名の皆さん、あらためて卒業おめでとう。

皆さんは、平成二十六年 四月にこの二見中学校に入学しました。大きめの制服に身を包んだ皆さんには、その時まで、あどけない小学生の雰囲気があったことと思います。しかし、三年間の中学校生活で、勉強や部活動、その他、多くの体験を経て心と体を鍛え、沢山の知識や智慧を身に付けて、大きく成長した姿が、今、ここにあります。

無事に今日を迎えられたのは、皆さん自身の努力の賜物であることは間違いありません。しかし同時に、いつも深い愛情を持って育ててくださったご両親や家族の皆さんをはじめ、先生方、先輩、友達、そして暖かく見守って下さった、地域の皆様方の支えがあったお蔭であるということも、決して忘れてはなりません。今日という日は、自分を支えてくれた多くの人に改めて感謝するとともに、四月からの新たな人生のスタートに向けた決意を しっかりと固める日でもあります。

さて皆さん、3年間の中学校生活の中での思い出というと、どんなことが頭に浮かびますか。日々の授業はもちろんのこと、一年生の時の「スキー実習」。「わくわくオーケストラ教室」。二年生での「トライやる・ウィーク」や校外学習。中でも三年生の修学旅行は、四月に発生した「熊本の地震災害」の影響を受け、当初予定していた長崎ではなく、時期も九月に延期して、東京修学旅行となりました。このようなことも滅多にある事では無いので皆さんの記憶に残ることと思います。

また、体育大会や文化祭では、生徒会執行部や実行委員を中心に、皆さんが

下級生の模範となり、引っ張ってくれました。これら二大行事の、どの場面においても、整然とした雰囲気の中に、各クラスの団結力や仲の良さが垣間見られる、素晴らしい出来栄であったと思います。皆さんも先輩達と同じく、あるいはそれ以上に、「I?FUTAMI宣言」を強く意識し、二見中学校の良き伝統を、更に前進させてくれたと私は確信しています。本当にありがとうございます。

さらに、部活動においては、夏の暑さにも 冬の寒さにも負けず、時には先生方の厳しくも熱い指導の下、運動部・文化部ともに頑張り、夏の総体では多くの部が明石を代表して東播大会、県大会へと駒を進めました。他の学校の校長先生方からは、「二見はいつも、すごいですね」、と、うらやましがられ、私は鼻高々です。

そして皆さんの頑張りや、確実に後輩たちに受け継がれるとともに、目指し追い越すべき目標となっています。お蔭で、後輩たちの活躍もすごいですね。

ただし、部活動は、決して勝つことだけが目的ではありません。私はむしろ、勝つために努力した**日々の苦勞、流した汗や涙、身に着けた礼儀・作法、そして仲間と協力して物事を成し遂げるといった大切な経験**。これらのことが、皆さんのこれからの人生において、より大きな財産になるのだと思います。そして、それらが、みなさんの次のステージで活かされなければ、部活動に打ち込んだ意義はなくなってしまうでしょう。そのことを忘れないでください。

ここで改めて、卒業していく皆さんの今後の活躍と幸せに思いを馳せ、「こんな生き方をしてほしいなあ」という私の願いを二つお話しします。

まず、皆さんは、**福沢諭吉**という人を知っていますか。一万円札の肖像画の人・・・といえば、わかるでしょうか。**福沢諭吉**は、時代が江戸時代から明治へと移り、日本という国が、近代的な国家をめざして、大きく変化を遂げた**激動の時代**に、教育者として国を導いた人の一人です。今の慶應義塾大学を創設した人としても有名です。その福沢諭吉が書いた本で、有名なものに「**学問のすすめ**」という本があります。

その本の冒頭に書かれている言葉、

「**天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず**」という言葉はあまりにも有名ですね。この言葉は、厳しい身分制度を作って、侍中心の社会を維持してきた江戸時代が終わり、これからは誰もが平等な世の中になったのだよ・・・という**強いメッセージ**であり、学問からは縁遠かった多くの国民に勇気と希望を

あたえ、当時の大ベストセラーとなりました。

しかし、あまり取り上げられないのですが、実は、その言葉の後に、こんな事が書かれているのです。

「しかし、現実の社会を見渡してみると、賢い人もいれば、愚かな人もいる。貧しい人もいれば、裕福な人もいる。それはなぜか。理由は明らかである。人は学ばなければ賢くも裕福にもなれないし、学んで賢くなろうとしなければ、愚かで貧しい人になる・・・。」ということで、本の題名が、「**学問のすすめ**」なのです。

明治維新は激動の時代でした。そして、実は今も激動の時代です。世界をも含めた、激しい社会の変化を見極め、先を読み、幸せに生きていくためには、賢くならねばなりません。どうか、これからも多くのことを学び続け、賢くなり、幸せに暮らして下さい。

次に、二つ目の願いについて話します。

私は、皆さんに「将棋の駒になるのでは無く、その将棋の差し手になって欲しい」と思っています。

最近、世界の先進国と呼ばれる国々の若者たちが、自分の生き方について、どう考えているかという調査の結果が出ました。その中にこんな事があります。「働くとは、どういうことか？」という「質問」に対して、何と日本の若者の90%が、「雇ってもらうこと」と答えたというのです。この90%という数字は、他の先進諸国に比べると、断突に高いというのです。言い換えれば、日本の若者達は、「**大きな会社に雇ってもらえれば、幸せが約束される**」と、まだ、思っているということでしょう。

また、「**新しい会社を作る人は、増えているのかどうか?**」を調べた別の調査では、日本は先進国の中で最下位から二番目だということです。そうなっている大きな原因は、「**今の日本人は失敗に対する恐怖心を強く持ちすぎているから・・・**。」だということです。

これから皆さんが生きていく時代は、**人工知能AI**や**仕事のIT化**などによって、今ある仕事がどんどん無くなり、**ロボット**が人間に取って代わりとういう時代です。だからこそ、皆さんは、失敗を怖れず、新しい仕事を生みだし、もし失敗しても、そこからまた立ち上がる・・・。そういう根性、たくましさをも身につけた人になって欲しいし、そうならなければならない、この国に未来は無いとまでいわれているのです。

言い方を変えると、みんながみんな、駒になろうとしか考えていない国は、確実に衰退していくことは間違いありません。皆さんの中から一人でも多くの人が、「駒を使って攻める」「勝負する」、新しい「**差し手**」になることをめざして生きていって欲しいということです。

学び続けて賢くなって欲しい。それと、失敗を恐れず「**新しい生き方**」を生み出して欲しい。この2つを忘れないで下さい。

最後になりましたが、保護者の皆様に、一言お礼を申し上げます。三年間にわたり、様々な学校の活動にご支援、ご協力いただきまして、誠に、ありがとうございました。これからは二見中学校が お子様の「**母校**」となります。その母校、二見中学校がこの二見町の宝として、益々、発展を遂げていきますよう、今後とも、地域の皆様と共に、ご支援をいただきますよう、よろしく願いいたします。

以上を持ちまして、卒業生の皆さんの前途に輝かしい未来を信じ、私の式辞といたします。

平成二十九年（二〇一七年）三月十日  
明石市立二見中学校 校長 木村 孝

